

実施日：11月2日（1校時）	
領 域：特別の教科 道徳	
取組名：100万回生きたねこ 【D-19 生命の尊さ】	
対 象：全校生徒	実施場所：教室
ア ねらい 生命には限りがあり、他者を大切に思う心が自分の命を大切に思う気持ちにつながることを理解し、自分にとっての幸せな人生について考えることができる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の発問では、「自分は何のために生きているのか」を自由に発言させることで、命について考えることを意識させる。 ・ 補助発問として猫の「これまでの人生」と「最後の人生」を比較し、「誰も愛さず、望まない生き方」と「愛することを知り、自分らしく生きた人生」の違いに気づかせることにより、「誰も愛さず望まない生き方」を100万回繰り返したことを確認し、中心発問の「なぜ猫は生き返らなくなったのか」につなげる。 ・ 白い猫が死んで、猫が100万回泣いたときの気持ち」「どんな涙だったのか」を考えさせ自分の人生を豊かなものにするには、他者との関わりが大きく関係することを理解させたい。 ・ 猫の生き方から、自分にとって幸せな人生について考え、どんな生き方をしたいか意見を持たせる。 	
ウ 連携先：家庭、阪神間の中学校	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業記録や感想をまとめ市内の学校とも共有する。 ・ 学級や学年通信で授業の生徒の感想を伝える等、家庭での話題となるよう情報提供を行う。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年で共通の教材を使用し、各学年の生徒の生命や人生に対する考え方を知る。 ・ 全教職員で指導案の検討や授業評価を行い、生徒の生命や人生についての捉え方を共有し、今後の人権教育に生かす。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察（グループワーク） ・ 感想 	
キ 成果 授業の前と後で「幸せ」についての考え方が変化した。最初は、自分本位な意見が多かったが、授業を経て他者との繋がりこそが自分が幸せになるために大切であるという意見がみられるようになった。	
ク 課題 授業の中では、命の尊さや、他者とのつながりの大切さについてしっかり考えさせることができた。一方、生徒たちは普段そういったことをあまり意識せずに日常生活を送っている。 今後の学校生活の中で、繰り返し考えさせていく機会を持つことが必要であると考え、それが自分の人生をより豊かにしていくのだということを様々な教育活動を通して実感させていきたい。	

※ 学習指導案、人権教育資料やその指導例、児童・生徒・参加者等の感想や活動写真、アンケート結果等、参考となる資料を添付願います。